

令和4年度 第2回 碧南市地域自立支援協議会 会議録

1 日時

令和4年10月12日（水）午後1時30分から午後2時40分まで

2 場所

へきなん福祉センターあいくる デイルーム

3 出席者

(1) 委員 20名

碧南市社会福祉協議会 杉浦 浩二（委員長）

碧南市手をつなぐ育成会 三浦 志朗（職務代理）

日本福祉大学教授 青木 聖久

碧南市身体障害者福祉協会 鈴木 たか子

NPO法人ハートフルあおみ（あおみJセンター所長）水野 啓章

刈谷公共職業安定所碧南出張所 永田 吉則

愛知県衣浦東部保健所 黒屋 一美（中根 恵美子の代理）

愛知県刈谷児童相談センター 瀬戸 奈都生

愛知県立にしお特別支援学校 早川 浩史

碧南市小中学校校長会 石橋 渉

親子の会「カラフル」 鈴木 由記

身体に障害のある子の親子の会「すまいる」 永井 美幸

ほっとまんまピアサポーター 杉浦 有美

碧南市農業委員会 藤浦 利吉

西三河南部西障害者就業・生活支援センターくるくる 加藤 正昭

刈谷病院 三浦 康裕（水野 美香の代理）

ふれあい工房アルゴ及びWHJ相談支援センターメビア 雲出 佑

就労センターオアシス碧南 中根 祐子

ふれあい支援センター 竹内 涼

りはくる 小幡 一美

(2) アドバイザー

西三河南部西圏域アドバイザー 大南 友幸

(3) 事務局

福祉こども部長 深津 広明

福祉課長 山本 貴史

福祉課社会福祉係長 河原 睦

福祉課社会福祉係主事 榊原 陵子

福祉課社会福祉係主事 畠山 和也

福祉課社会福祉係主事 齊木 鉄馬

福祉課社会福祉係主事 亀島 瑞生

(4) 基幹相談支援センター（碧南市社会福祉協議会）

地域福祉課長 村松 幸雄

地域福祉課地域福祉係主査 古川 裕隆

地域福祉課地域福祉係主査 小島 誠司

地域福祉課地域福祉係主事 坪井 優佳

地域福祉課地域福祉係主事 長谷川 祥子

地域福祉課地域福祉係主事 天野 好美

地域福祉課地域福祉係主事 久村 明弘

4 傍聴者

0人

5 議題

(1) 各作業部会の取組状況について

(2) その他

6 議事の要旨

(1) あいさつ（杉浦会長）

(2) 議題

ア 各作業部会の取組状況について

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

A委員：障害者雇用の現況やハローワークにて取り組んでいることについて紹介をお願いしたい。

B委員：今年度の10月に新しく着任しており、障害者の分野は初の経験で、この場を借りて勉強していきたいと考えている。障害者の自立のためには、就職して、自らの賃金にて生活をしていく必要がある。碧南市は就職率が高い方であるが、障害者の就職率は厳しい状況である。身体障害者と比較して、精神障害者が多く、退職時は、身なりが落ち着いていた方も再就職に時間がかかることにより、身なりが荒れたりしてしまい、再就職が困難になってしまう。そのため、以前働いていた状況に早く戻るように支援していく必要がある。

C委員：事業所部会の活動報告にて、アンガーマネージメント研修の報告があったが、参加者の感想等について聞きたい。

D委員：保護者の立場から、息子の他害が酷く、夜中に何度も起きたり自身もイライラしていた。職員と話をする、子どもの違う面が見えてきた。自分がイライラすると見えなくなる面もある。ただ、1度研修を受けただけなので、これからも継続して研修を受講することが大切であると感じた。

E委員：事業所の立場から、研修は楽しくあっという間に終わった。また、今回学んだことを事業所に持って帰り発表した。今後も、このような研修があるのであれば、1回だけではなく、これからも継続して参加したい。

F委員：災害支援部会の活動報告にて、総合防災訓練に参加したとのことであったが、こちらにも参加者に感想等を聞きたい。

G委員：障害のレベルにもよるが、避難することについて避難所にはあまり行きたくない、大勢の集まる場所に行くことにより、他者に迷惑をかけることが必然的であるため、当事者に声をかけたとしても「何とかなるでいいわ。」と言われた。当事者について、やはり訓練には参加したくないという意見が多いが、その中でも今回の訓練については、参加するように引っ張ってきた。当事者は、自らの障害を特に理解しており、訓練に参加する人を増やすことが難しいと感じた。

H委員：にしお特別支援学校について、開校後、半年たった現状を教えてほしい。

I委員：3年生については、実習という形を行い進路後の生活が少しずつ見えてきている。また、ちょうど2年生は、現在実習中である。子ども達も大変であるがその中でも頑張っている。防災の件について、本校でも、既に2回ほど防災訓練を実施している。障害の特性に合った防災訓練を探りながら行っている。

(3) その他

事務局が会議資料に基づき、次回の会議予定等を説明した。

7 まとめ

(1) 圏域アドバイザーまとめ（西三河南部西圏域アドバイザー 大南友幸氏）

碧海6市の自立支援協議会や部会に圏域アドバイザーとして参加している。これまでも、研修を圏域内で参加できるようになれたらいいとこれまでも発言してきた。今回のアンガーマネージメントの研修参加人数を初めて聞いて、すごく大成果だと感じた。他市も研修について検討しているとのことであったことから良い事例を作っ

くれた。

こども部会等の部会にも参加している。医療ケアの必要な子について、碧南市内での社会資源ですべてが揃うということではないことは十分理解できた。そのうえで、使えるものは何か使えないかを具体的に検討しており、市が持っている社会資源を有効に使えるように研究していると感じた。

地域生活拠点について、碧南は評価の軸をしっかり持っており、今年で4回目であり、弱いところを埋めて次年度につなげていき、実践実施できるように一つのモデルとして他市にお勧めができると思い話を聞いてきた。今後も共に歩んでいきたい。

(2) 学識経験者（日本福祉大学 青木聖久 教授）

貴重な報告ありがとうございました。気づいたことなどを4つにまとめました。

まず1つ目は、ニーズと視点の変更について。アンガーマネージメントの研修に参加した人の数を聞き、疲弊している人やご家族が多くいることを改めて感じた。しかし、一方で、ここに参加している方も、ストレスがない人はいない。自分の問題点は絶対に無くならない。今回のような研修に参加することにより、問題は隅っこの方に行く。問題は、そのように小さくなっていく。これが視点の変更である。

ジレンマは悪いことではなく、背中を押してくれると楽に支援に向かえるといい。家族支援について、かつては支援の協力者として求められていた家族だが、現在は家族を支援対象者としている。研修はすごく大切であるが、なかなか第一歩を踏み出すことが出来ない。

2つ目に、伝えるということ。就労部会でも話が合った、ITの活用普及。文章より写真などの方が伝わる。最近だと動画がそのようなものである。どうやって相手に伝えるか、いかに伝えるかが重要である。量的なものも1つの伝えるではあるが、当事者家族の話を具体的に掘り下げていくこと、質的な1つに集中することも大切である。サポートブックを作成することによって関係者や当事者のことを知ることが出来る。その際にポイントになるのが、5W3Hである。

3つ目に、順番の入れ替えによる支援について。防災について、様々な研修を行う際に、防災士などプロを呼ぶことや参加してもらうことにより、防災士にも障害について知ってもらう機会になる。そのため、防災士と障害者がプロ同士の話し合いが一番いいものを作りだすことが出来る。地域移行について、動機の後付け、一步を踏み出すことが難しいが、その一步が必要。動機の後付けなど、これが順番の入れ替えによる支援というものである。

最後に、知ることの大切さについて。これまでは、20時間の壁があり、20時間を超えないと労働保険の対象にならなかったが、短時間労働トライアル雇用なら、そ

れより短時間で利用ができ、企業にも補助が出るため対象者も使いやすい。そのように、知っていることが必要である。

以上